

# 船舶事故調査報告書

平成31年2月20日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成30年6月24日 14時00分ごろ
発生場所	広島県尾道市高根島北岸沖 高根島灯台から真方位100° 300m付近 (概位 北緯34° 20.0′ 東経133° 04.8′)
事故の概要	プレジャーボート第三龍宮丸は、南進中、暗岩に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成30年7月31日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 第三龍宮丸、5トン未満（長さ6.8m）
船舶番号、船舶所有者等	260-21441 広島、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船底外板に擦過傷、プロペラ翼及びプロペラ軸に曲損、舵板に曲損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風速 約5m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 低潮時、潮高 約79cm（瀬戸田）
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、尾道市生口島北方沖に向け、高根島北方沖を約10ノットの対地速力で手動操舵により南東進していた。</p> <p>本船は、船長が、予定針路上に錨泊中の貨物船（以下「錨泊船」という。）がいたので、‘錨泊船と高根島北方沖の岩場が散在する海域（以下「本件浅所域」という。）との間を通航することとし、錨泊船に近寄らないよう右転して南進中、本件浅所域の暗岩に乗り揚げた。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.35m、船尾約1.70mであった。</p> <p>船長は、‘本件浅所域の海面上に干出している岩’（以下「本件干出岩」という。）を目視していれば本件浅所域付近を通航できると思い、本件干出岩との距離を十分にとっていなかったと本事故後に思った。</p> <p>船長は、ふだん本件浅所域沖を通航して慣れているので、本件干出岩の存在を知っていたものの、暗岩の正確な拡張状況を把握していなかった。</p> <p>船長は、GPSプロッターを起動していたものの、ふだん通航して慣れた海域であったので、同プロッターを見ていなかった。</p>
分析	<p>本船は、錨泊船と本件浅所域との間を南進中、船長が、本件干出岩を目視していれば本件浅所域付近を通航できると思い、本件干出岩との距離を十分にとらずに航行を続けたことから、本件浅所域に進出し、本件浅所域の暗岩に乗り揚げたものと考えられる。</p>

原因	本事故は、本船が、錨泊船と本件浅所域との間を南進中、船長が、本件干出岩を目視していれば本件浅所域付近を通航できると思い、本件干出岩との距離を十分にとらずに航行を続けたため、本件浅所域に進入し、本件浅所域の暗岩に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 船長は、岩場が散在する海域付近を通航する場合、可航幅を事前に把握した上、GPSプロッターを活用し、同海域との距離をとって航行すること。</li></ul>